

令和元年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業  
課題対応型学習活性化セミナー（道東会場）事業報告

I 事業の概要

研修テーマ 地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働  
～ 主体的な地域社会の実現に必要な行政の関わりを学ぶ ～

- 1 趣 旨 各地域の課題解決に向け、講演や協議を通して住民の主体的な行動を促すための方策について考える。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター  
釧路管内社会教育主事会
- 3 期 日 令和元年7月4日（木）
- 4 会 場 釧路町公民館
- 5 参加対象 市町村及び市町村教育委員会職員・各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）・社会教育関係団体職員・生涯学習関連施設職員・民間団体（NPO、企業等）関係者・教員 等
- 6 参加状況 25名  
（教育局職2名、市町村教育委員会職員20名、道立青少年体験活動支援施設職員2名、教員1名）

7 日 程

10:15	10:30	12:00	13:00	15:00
受付	開会	講演	昼食	協議
				閉会

8 活動の概要

(1) 講演「行政主体の地域づくりから住民主体の地域づくりへ」

【講師】北海道科学大学教授 出口 寿久 氏

【内容】はじめに、国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の地域別将来推計人口」等に基づき、人口移動が収束しない場合の人口変化率について説明し、地域住民自らが主体となって地域課題の解決に向けて取り組んでいる、島根県出雲市の地域運営組織の事例を紹介した。

次に、徳島県上勝町の葉っぱビジネスを事例として、20～40年後を本気で見据えた地方創生には、地域で生業・事業・産業を創り出せる人財の育成が急務であり、そのための手立てを打つことの必要性について説明した。

最後に、公民館を核とした地域運営組織づくり、社会教育を中心とした地域づくりの重要性について説明した。



(2) 協議

【進行】北海道立生涯学習推進センター社会教育主事 中西 めぐみ  
釧路教育局教育支援課社会教育指導班主査 柴田 快 憲

【内容】 「住民を巻き込んだ地域づくりを進めるためには、どのような取組ができるか？」をテーマとして話し合い、取組案を「実現できる時期が早いや遅いか」と「住民を巻き込むことが容易か難しいか」の二軸で考え、色々な視点からアイデアを出し合った。



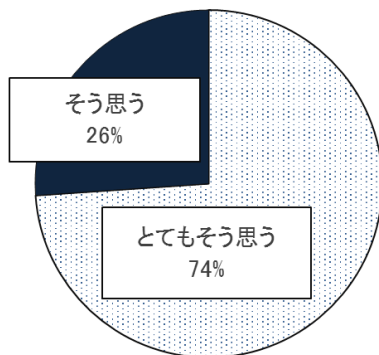
## II 事業の満足度

1 本講座参加者数 25 名

2 アンケート対象者数 23 名

3 全体をとおして

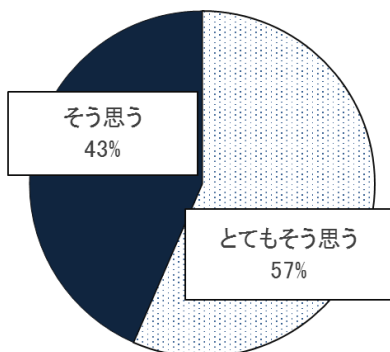
(1) 目指す地域づくりの実現に向け、行政の役割や関わり方を学ぶ研修会となりましたか。



【参加者の声】

- 行政や公民館の在り方、地域にあった目標を立てることの重要性を学ぶことができた。
- 協議がとても勉強になった。

(2) 本セミナーの内容は、今後の事業改善や取組の検討につながるといいますか。

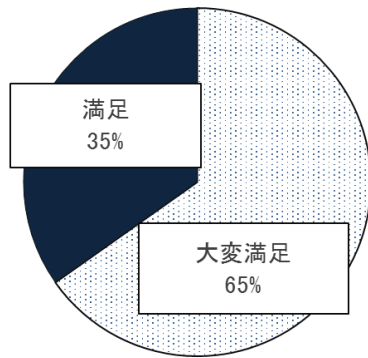


【参加者の声】

- 職場で生かせるヒントをいただいた。
- 教育委員会だけではなく、首長部局との連携が必要だと再認識することができた。

#### 4 プログラムの内容について

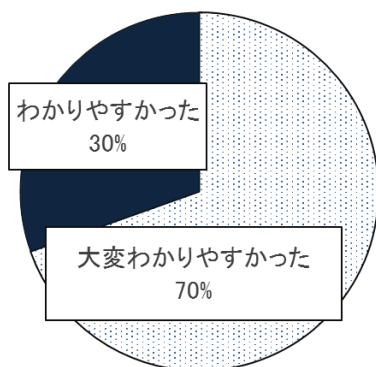
(1) プログラムの内容はいかがでしたか。



##### 【参加者の声】

- 内容が段階毎に整理されていて、わかりやすかった。
- 講演も協議も充実しており、実際に町の課題解決に繋がる内容で良かった。
- 地域運営組織や小規模多機能自治組織について学ぶことができた。

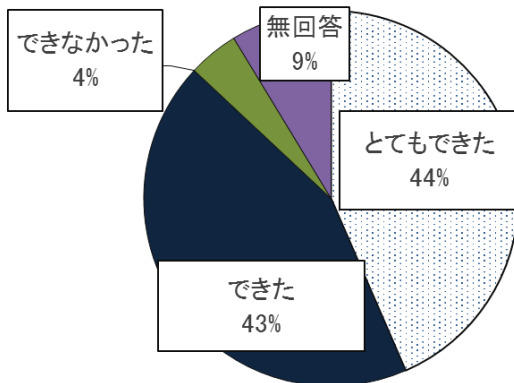
(2) 講師の説明はわかりやすかったですか。



##### 【参加者の声】

- データを基に説明してくださり、大変理解しやすかった。
- 小規模多機能自治組織について初めて知り、学ぶことができた。

(3) 「協議」では、住民を巻き込んだ取組について考えを深めることができましたか。



##### 【参加者の声】

- 色々な視点で取組を検討することができ、考えが深まった。
- 一人ひとりの思いを互いに尊重し合える雰囲気だった。
- 初めて行う手法で、自分の考えが広がった。
- 具体的な役割について考えるには時間が足りなかった。

※無回答：協議に参加していないため

#### 5 その他、感想や気づいた点について

- 出口先生の講演は、事例を交えての内容であり、具体的で大変分かりやすく参考になった。後半の協議では、新たな討議法を知ることができ、参考になった。
- 短い時間だったが、地域づくりについて考える良い機会となった。
- 大変充実した研修だった。
- 規模がちょうど良く、考えを深めることができた。